

(仮称)第1給食センター事業検討経過について

※ 12月23日 西日本新聞(朝刊)

(誤) 学校給食センターが建設される見通し

(正) 学校給食センターを、地元等の納得や理解が得られれば建設したい意向

1 福岡市学校給食センター再整備基本構想

○ 4センターから3センターへ

○ 南部方面エリアの着手を優先に考え、状況により東部方面エリアを検討

2 (仮称)第1給食センター整備計画策定(経過報告)

● 整備計画検討委員会

○ 策定スケジュール

① センター給食提供に係る施設設備等の基本仕様の検討(要旨)

②(仮称)第1給食センターにおける事業手法の検討

※ 近年における大規模給食センター稼働事例

③(仮称)第1給食センター事業候補地の概要

○ 博多区東平尾一丁目9番 12,683㎡ (福岡市土地開発公社所有)

福岡

都市圏

11月にあった古賀市長選はこれまでの市長選挙の中で最低の投票率(50.3%)だった。現職と新人が激しく争っただけに「前回(52.94%)よりも上回るはず」(市選管)という期待も及ばなかった。同市では国政選挙の投票率は60%を超えて

福岡市教委

フッ素検出の塩漬け用地

給食センター建設へ

「有害物質の除去後に」

福岡市の要請で市土地開発公社が先行取得しながら、10年以上「塩漬け」状態だった博多区の土地に、市内の中学校と特別支援学校の給食を調理する学校給食センターが建設される見通しであることが分かった。ただ、2008年の土壌調査で有害物質のフッ素が検出さ

れている。市教委は「給食の配送時間などを考慮し、最適候補地と判断した。フッ素を完全に除去した上で、再整備する」としているが、論議を呼びそうだ。

土地は東平尾1丁目の約1万2700平方メートル。職員研修所用に同公社が1995年と98年に約20

億円で先行取得。市が買収する予定だったが、財政難から研修所計画は02年に撤回され、用途は決まっていなかった。08年に土壌汚染対策法に基づき土壌調査をした結果、水1リットルに溶け出すフッ素が環境基準(0.8ミリグラム)を上回る1.45ミリグラム検出され、基準の56

倍のフッ素が検出された地点もあった。フッ素は過剰摂取すると骨や歯がもろくなる恐れがあるが、地下水への流入や周辺住民からの被害報告はないという。

市教委によると、市内4カ所の学校給食センターが老朽化しているため、今年10月に南部、東

部、西部の3方面に再整備する基本構想を策定。南、中央、博多区の大半と城南区の一部を担当する南部方面の新センターを優先し、委員会を設けて検討してきた。

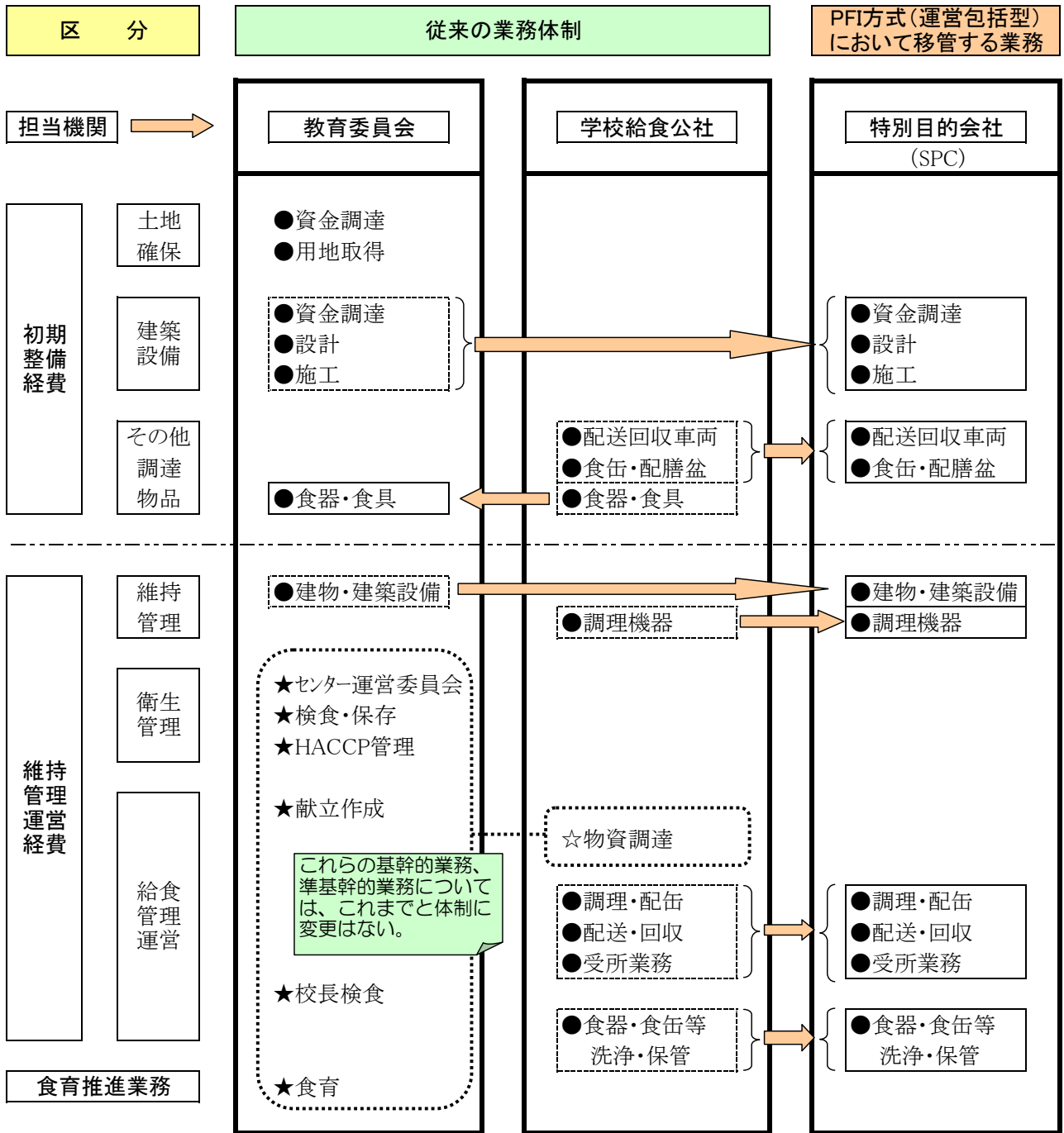
その結果、配送の効率性や1日1万3千食を調理できる広さ、早期取得が可能などの理由で博多区の土地に絞り込んだ。

市議会第2委員会に報告された計画案によると、11年2月に計画決定する予定で、14年度当初の開所を目指す。

(1 2 月 議 会 第 2 委 員 会 資 料 一 式)

(参考1) 施設整備及び管理運営業務の検討

※凡例 ⇒ ★：基幹的業務 ☆：準基幹的業務 ●：その他の業務



(参考2) 各センターの整備スケジュール (想定)

	想定食数	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
第1センター	13000	整備計画	事業者選定	設計・建設期間	稼働					
第2センター	13,000			整備計画	事業者選定	設計・建設期間	稼働			
第3センター	14000					整備計画	事業者選定	設計・建設期間	稼働	